

令和 6 年台風 10 号によるクリの落穂実態

令和 6 年（2024 年）8 月 29 日の台風 10 号（最大瞬間風速 25.8m/s）では、毎年せん定を行っている樹の落穂率は、せん定を行っていない樹より低い。また、品種毎の落穂率は収穫期の早生品種が高かったが、収穫可能な穂を除いた減収率は「ぼろたん」をのぞく主要品種では大きな品種間差はなかった。

農業研究センター球磨農業研究所（担当者：鶴岡奈緒）

研究のねらい

台風襲来時におけるクリの落穂の実態については、落下した穂が散乱し、どの樹からの落穂か区別がつかず、品種間の比較が出来ない場合が多い。しかし、令和 6 年（2024 年）8 月 29 日に襲来した台風 10 号（最大瞬間風速 25.8m/s）では、樹の真下に落下した穂が多かったため、品種毎の落穂率を調査し、8 月末の台風による被害実態を明らかにする。

研 究 の 成 果

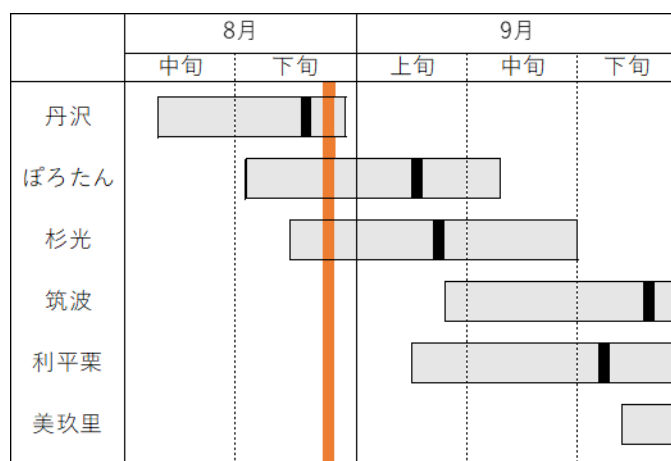
台風襲来時、「丹沢」は収穫盛期過ぎ、「ぼろたん」「杉光」は収穫盛期前、「筑波」「利平栗」「美玖里」は収穫開始の 1 週間以上前であった（図 1）。

1. 「筑波」では、毎年せん定を行っている樹の樹高は 3.9m で落穂率が 4 % であったのに対し、せん定を実施していない無せん定樹では樹高が 6.4m と高く 13% 落穂し、毎年せん定を行っている樹の落穂率が低い（図 2、3）。
2. 落穂率は収穫期の早生品種で多いが、落穂した穂のうち収穫可能なものを除いた減収率は、「丹沢」8 %、「ぼろたん」21%、「杉光」12%、「筑波」4 %、「利平栗」10%、「美玖里」11% となり、「ぼろたん」以外の品種では実質の被害に大きな差はなかった（図 4）。

成果の活用面・留意点

1. 本試験は、球磨農業研究所内の作況樹を調査した結果である。作況樹の樹齢は「丹沢」「杉光」「筑波」「利平栗」22 年生、「ぼろたん」17 年生、「美玖里」13 年生で、樹高は 3.3～4.7m だった。
2. 台風 10 号（最大瞬間風速 25.8m/s）では、穂が周囲に散乱せず樹冠下に落ちていたため品種毎の被害程度の調査が可能だった。あくまで今回の台風での被害程度であり、より強風で枝折れ等あればより大きな被害となる。
3. 台風により落穂した穂でも、裂開して果実が見えていれば果実品質に問題なく収穫可能である（農業研究成果情報 No. 244）。

【具体的データ】 No. 1128（令和7年（2025年）6月）分類コード 02-10 熊本県農林水産部



— : 台風10号襲来日 — : 収穫盛期

図1 各品種の収穫期と台風襲来時期

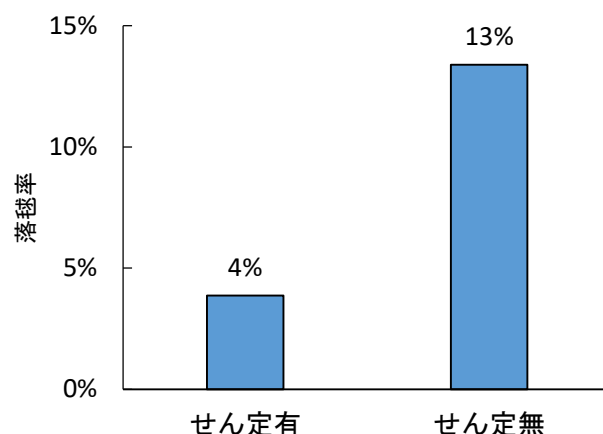


図2 せん定の有無による落穂率の違い（「筑波」）



図3 せん定の有無による樹高の違い（「筑波」）

※せん定有は結果母枝が高さ3～3.5mの範囲に多くあるが、せん定無は4～6m程度の樹の表層に結果母枝が多くある。

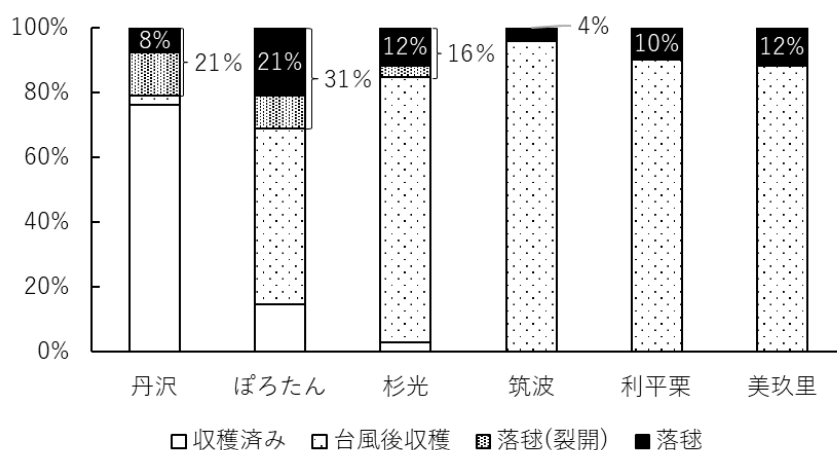


図4 各品種での台風による落穂率と減収率

※グラフの着色部分が台風襲来時樹上にあった穂。落穂(裂開)は収穫可能であり落穂が実質の減収率。